

・アジア各地でデング熱が流行

東南アジアでは雨期を迎え、各地でデング熱の流行が報告されています。

タイでは7月末までに3万人以上の患者が発生し、19人の死亡が確認されました(Pro MED 2011-7-24)。カンボジアでは7月上旬までに全国で入院患者が4600人以上にのぼっており、昨年同期(2800人)より増加している模様です(Pro MED 2011-7-24)。ベトナムでは南部を中心に2万人以上の患者が発生し、7月だけでも患者数は5000人にのぼりました(Pro MED 2011-8-7)。

南アジアのスリランカでもデング熱の流行が発生しており、7月末までに首都のコロンボなどで1万人以上の患者が報告されました(Pro MED 2011-8-1)。

日本国内でも今年はずでに40人以上の輸入デング熱患者が報告されています(国立感染症研究所・デングウイルス感染症情報 <http://www.nih.go.jp/vir1/NVL/dengue.htm>)。患者が感染した国は3月まではインドネシアが多く、4月以降はフィリピンやバングラデッシュが多くみられます。東南アジアや南アジアではデング熱の流行がこれからピークとなるため、滞在する際は防蚊対策を充分にとってください。

・ベトナムでの手足口病の流行

ベトナムでは南部を中心に小児の間で手足口病の流行が発生しています。患者数は8月中旬までに3万人以上に達し、このうち81人が死亡しました(Pro MED 2011-8-16)。病原ウイルスとしてはエンテロウイルス71型が主に検出されています。

手足口病は口腔粘膜や手足に水疱性発疹をおこすウイルス疾患で、稀に髄膜炎、脳炎、心筋炎などの合併症をおこします。原因としてはコクサッキーA16型やエンテロウイルス71型が多くみられ、後者は合併症をおこす頻度が高いとされています。日本でも今年の夏は手足口病の大流行がみられていますが、病原ウイルスは半数以上がコクサッキーA16型でした(国立感染症研究所 IDWR 2011-第27週)。本症は飛沫感染や接触感染で流行が拡大するため、予防のためには手洗いが重要です。

・ドイツでの大腸菌O104型流行の終息

ドイツ衛生当局は7月26日に、同国北部を中心に流行していた大腸菌O104型の流行が終息したことを発表しました(Europe CDC 2011-7-27)。最後の患者発生は7月4日でした。今回の流行でドイツでは3785人の患者が確認され、このうちの2割にあたる733人が重症の合併症(溶血性尿毒症症候群)をおこしました。死亡者数は45人にのぼっています。

この終息宣言後に新たな患者発生はみられていませんが、今年の夏、ヨーロッパに滞在する方は、原因食品(糸モヤシ、コロハ種子、緑豆、レンズ豆、アズギ、ルッコラなど)の含まれる生野菜を控えた方がいいでしょう。

・ギリシャで蚊に媒介される感染症が流行

ギリシャで蚊に媒介されるウエストナイル熱と三日熱マラリアの流行が報告されています。

ウエストナイル熱は1月から8月中旬までに26人の患者が報告されており、このうち20人は8月になってからの発生です(Europe CDC 2011-8-16)。地域では首都アテネのあるアッティカ県からの報告が多くなっています。三日熱マラリアはギリシャ南部のラコニア県などで、6月以降に少なくとも6名の患者が発生しています(CDC Travelers' Health 2011-8-19)。

ギリシャは日本からの観光客も多く、滞在中は蚊に刺されない注意が必要です。ウエストナイル熱やマラリアを媒介する蚊は夜間吸血する習性があり、夜の外出時はとくに注意をしてください。